

会 議 録

会 議 の 名 称	小金井市新庁舎・(仮称) 福祉会館建設 実施設計 第1回 こがねいミーティング
事 務 局	佐藤総合計画株式会社 渡辺 猛 河田 健 猪原 昭宏 井上 遼 前島 賢 庁舎建設等担当課長 企画政策課企画政策係主査 渡邊 健介 企画政策課企画政策係主任 萩野 裕人 中島 墨 福祉保健部長 中谷 行男 福祉会館等担当課長 林 文男 地域福祉課地域福祉係主任 斉藤 祐太
開 催 日 時	令和2年9月9日午後7時00分から午後9時10分まで
開 催 場 所	萌え木ホールA・B会議室 (商工会館3階)
出 席 者	卯月 盛夫 委員長 齋藤 啓子 委員 金子 和夫 委員 上原 和 委員 坂野 勝一 委員 諏訪間 千晃 委員 中村 彰宏 委員 森田 眞希 委員 石塚 勝敏 委員 矢野 典嗣 委員 高橋 茂夫 委員
傍 聴 の 可 否	可
傍 聴 者 数	0人
会 議 次 第	1 委員長挨拶 2 基本設計“こがねいミーティング”の方向性の検討状況報告 3 マルチスペース等の展示方法についての検討 4 閉会
会 議 結 果	別紙のとおり
発言内容・発言者名 (主な発言要旨等)	別紙のとおり
提 出 資 料	次第 資料1:実施設計第1回こがねいミーティング 資料2: 新庁舎・(仮称)新福祉会館建設の経過について(第4回こがねいミーティング以降) 資料3:こがねいミーティングの方向性のまとめ 資料4:市民活動スペースの利用方法等に関する検討について
そ の 他	—

次第1 開会挨拶

《委員長 開会挨拶》

次第2 基本設計“こがねいミーティング”の方向性の検討状況報告

(1) これまでの経過について

《資料2に基づき、事務局から説明》

(2) こがねいミーティングの方向性のまとめについて

《資料3に基づき、佐藤総合計画から説明》

【委員長】 広場について、現在の検討状況をもう少し細かく伺いたい。

【佐藤総合計画】 パブリックコメント等でご意見を踏まえ、事務局とも協議して、現在、資料1の2ページの配置図のとおり、敷地北西部の広場を大きくすることを検討している。約900㎡程度で芝生の周囲に歩行空間を設けることを考えている。

舗装の色を工夫して、歩道と車道を明確に区別できるよう考えている。敷地内は極力段差を設けないよう考えている。

【事務局】 広場の見直しに伴い、駐車場台数の見直しも行っている。ココバスについては、現在、交通対策課において、基本方針及び再編運行基準に基づき、具体的な運行ルートを検討している。

【委員長】 広場についてご意見があれば伺いたい。

【委員】 福社会館の4階屋上はどのような設えか。

【佐藤総合計画】 現在は天然芝を想定している。東側は隣地へのプライバシーに配慮してプランターを設ける想定としている。

【委員】 樹木の影から子どもが突然出てきても危なくないよう配慮をお願いしたい。

【佐藤総合計画】 安全性には配慮した計画とする。

【委員】 コロナ対策として広場から建物への動線上に手洗い場を設置するなど、建物入口周辺に水回りがあると使いやすいのではないかと。

【委員】 舗装計画はどのようなものか。

【佐藤総合計画】 駐車場の耐荷重、景観にも配慮して着色アスファルトで親しみのもちやすい色となる舗装計画を考えている。広場部分は、ブロック系の舗装として、周囲の歩行空間は土を固めた舗装を想定している。いずれも公園資材で使われるような素材を想定している。

【委員】 視覚障がい者や高齢者は、摩擦係数の違いにより躓きやすくなることもあるので舗装材の選定の際は、アプローチとともに配慮してほしい。

【委員】 土系の舗装材とする場合、色弱の方にも認識しやすいように、明度の異なるものとす

るなど、配慮をお願いしたい。

- 【 委 員 】 フラットな舗装とした場合、子どもや高齢者などが誤って車道に出ないように配慮が必要である。
- 【 委 員 】 歩道と車道の境界部が、認識しやすいように配慮してほしい。
- 【佐藤総合計画】 車道と歩道は、境界がわかるように、適宜ボラードを配置する想定である。
- 【 委 員 長 】 北西広場は、基本設計時に比べて面積が大きくなっているのはいいことだと思う。目立つ場所なので、十分に検討を行ってほしい。

次第3 マルチスペース等の展示方法についての検討

《資料1に基づき佐藤総合計画が説明》

《資料4に基づき事務局が説明》

- 【 委 員 長 】 マルチスペースや待合スペースの展示について説明をいただいた。また、6階は壁も多く、展示スペースとして適しているのではないかと、との説明であった。ご意見をいただきたい。
- 【 委 員 】 庁舎の北側はガラス張りとなっているが、風圧への強度はどのように考えているか。また、資料にある1階待合スペースの浮いているような天井は、地震の揺れに対してはどのように対応するのか。
- 【佐藤総合計画】 ガラスを支えるサッシュについては、当然、法的要件を満たすよう耐風圧を確保する。ただし、ガラスが割れる可能性がゼロではないため、割れてしまった場合は、飛び散らないようにフィルムを張るなど安全性に配慮する。
庁舎部分は、免震構造を採用しているため、激しく揺れることはないものと考えており、天井面が落下することはないと考えている。また、大きな天井面ではなく、小さな天井に分節しお互いに隙間を設けることで、建物躯体への衝突による天井の破損を防ぐことができる。
- 【 委 員 】 コロナ感染症対策が必要な状況下において、換気はどのように考えているか。
室内空間は間接光によりやわらかい光といった説明があったと思うが、記載台やテーブルなどの手元の光量についてはどのように考えているか。高齢者が使いやすい光量を確保できているか。
- 【佐藤総合計画】 基本的には、機械換気により法令で規定している排気量を満たす計画としている。中間期などには、補助的に自然換気も取り入れられるよう計画している。
光量は、テーブルに照明を設置し、作業にも適した照度とする計画である。
- 【 委 員 】 ピクチャーレールやスポットライトといった展示の設備が少し、少ないように感じるがどうか。
- 【佐藤総合計画】 マルチスペースは壁面が少ないため、資料にあるような壁を使用しないような展示方法も考えられる。1階多目的室は、壁面が比較的多く展示にも適している。多目的室の可動間仕切りを展示パネルとして活用するなど、展示しやすい環境づくりを検討していく。議場のある6階は壁面が多いので、展示に適した空間であると考えている。
- 【 委 員 】 展示の動線は、コロナ対策として密とならないような動線の工夫をお願いする。
- 【 委 員 】 資料の内装のパスにあるじゃかごは、一般的に外装で使われることが多い印象だが、内装で使うこともあるのか。
展示パネルは可動式のものがあるとよい。マルチスペースのテーブルは展示にも使えるような汎用性があるものがよいのではないかと。ポスターなどの掲示物を気軽に貼ることができるスペースがあるとよい。1階風除室前のピクチャーレールは可動パネルがあれば不要だと思う。

- 【佐藤総合計画】 じゃかごは外装で使われることが多いが、外部に使用しているじゃかごを内部まで引き込み、内外を同じ設えとすることで一体的な繋がりのあるような空間としている。じゃかごについては、市と協議しながら進める必要があるが、現段階では、モックアップも作成して素材感なども確認しながら検討したいと考えている。
1階風除室前については、ご意見も参考にして再考したい。
- 【委員】 マルチスペース、待合スペースの什器購入は本体工事に入っているか。デザイン性なども考慮して、備品のデザインも含めて設計事務所が行えるとよいと思う。
- 【佐藤総合計画】 什器等の選定基準の検討も設計業務に含まれている。
- 【委員】 日常的に展示を行うのではなく、福祉会館には高齢者などが気軽に訪れてたたくことができるスペースが常にあるとよいと思う。ライト付きのテーブルといった説明があったが、寄りかかっても大丈夫なように高齢者が安心して使えるように要望する。
- 【委員】 常設展示スペースやイベント的な展示スペースなど、建物内で用途別というか、性格分けがあるとよいのではないかと。
6階は、壁面が多く展示にも適していると思われるので、“〇〇ギャラリー”などと名前をつけて一定期間の借りられる展示スペースとしてのシステムがあるとよい。
1階待合部の柱まわりは小さな常設的な展示スペースに適していると思う。マルチスペースはイベント時の仮設展示とするなど、それぞれ特徴をもたせるとよい。
机の照度は、昼と夜とで変えることができると居心地の良い空間になるのではないかと。
パースにある1階待合スペースの浮いている天井は、シャッターを閉じるとどうなるのか。
- 【佐藤総合計画】 各シーンに適した照明の演出ができるようにしていきたい。シーンに応じて適切な明るさや明るさ感（照度や色温度）を確保できるよう、調光可能な照明とするなど検討していく。
待合スペースの窓口部上部の浮天井は、シャッターが閉まった際も、不自然とならないように工夫していきたい。
- 【事務局】 1階待合スペースは閉庁時には開放する方向で考えているが、セキュリティラインなど、閉庁時の利用を第一に考え、整理する必要がある。具体の使い方や什器の選定についてはセキュリティ計画と合わせて設計者と協議したい。
- 【委員】 窓口部上部の浮き天井は、執務スペースと市民利用スペースの領域を“重ね合わせる”よい提案だと思う。
- 【委員長】 展示以外でご意見等があれば発言をお願いします。
- 【委員】 エレベーターのサイズはどのように考えているか。車いす等の大型化の傾向にあるため、大きいサイズのエレベーターが身障者用としてあると、感染予防対策も含め使いやすと思う。
- 【佐藤総合計画】 建物真ん中に位置する風除室に入ってすぐのエレベーター及び福祉会館のエレベーターは車いす利用者も利用しやすい15人乗りのサイズとしている。庁舎西側に位置するエレベーターはストレッチャーも利用可能な大きさとしている。
- 【委員】 2階カフェは、今後様々な運用方法ができるような設えとする考えもあると思う。
- 【事務局】 市内の福祉事業者の運営を前提に、あたためた軽食やコーヒーなどの飲み物の提供を基本とした設備を予定している。運営主体が代わる場合などは、その都度事業者と調整していきたい。
- 【委員】 既に十分に議論をしてくれていると思うが、建物の上層階が前にせり出しているが、構造的にはどうか、改めて見解を伺いたい。また、低層階の採光はどうか。
- 【佐藤総合計画】 地面から立つ柱が全体の構造体であるので、構造としては安定している。前面のせり

出している部分は最上階の梁から吊り下げるような考え方としている。

採光については、低層階もガラス張りとしているため、十分確保している。本建物は直射日光が入りにくい北側をガラス張りとしているため、安定した採光を建物内に効率的に取り込むことができる。

【 委 員 】 基本設計に比べて広場が大きくなったことはよいが、広場の使い方も多様となり、逆に制限が出てくる。運営面を整理して安全面への配慮をお願いする。

【 委 員 長 】 広場については、北西のひろばが大きくなったことや、歩車道における舗装の区別は、車いすの方や視覚障がいの方など、多くの人の視点を取り入れたものとしてほしいという意見があった。

マルチスペースだけでなく、多目的室、市民参画スペースなども有効に活用できるとよいといった意見があった。

じゃかごの内装は、小金井らしさも取り入れながら検討していただきたい。

展示については、日常的な貸出スペースやイベント的な貸出スペースなど使い方の性格付けを行いながらスペースを決めていくと利用者にとってわかりやすく、また、利用しやすいスペースになるのではないかという意見があった。

実施設計における“こがねいミーティング”は残り1回となる。メインのテーマはサイン計画となるが、今回の議論を踏まえて、また次回に繋げたいと思う。

以上